

休暇分散化に対する高等学校の意見

全国高等学校長協会
(会長) 青 山 彰

1 高校生にとっての休暇分散化の意義

高校生にとって休暇は、学校を離れて保護者や地域の方々とふれあい、豊かな経験や教養を積み、豊かな心と体力を向上させるとともに、高校生の発達段階から、小・中学生に比べて友達との関係が強くなり、自主的・自発的に活動することが多くなるため、休暇は豊かな人間性を培う良い機会である。休暇分散化により交通機関や観光地等の混雑が緩和されることにより、生徒の活動が促進され、安全でゆとりのある休日を過ごすことができる点で意義は大きい。

2 年間行事計画への影響

5月、10月の連休中は、その周辺に体育祭、遠足、修学旅行等、様々な学校行事を計画する学校が多い。修学旅行の日程は、2年以上前から計画するため、計画のための時間的な余裕が必要である。また、10月には三期制の学校では中間考査や大学等の推薦入試、就職活動などが予定される。そのため休暇分散化の実施に当たり、これらに関係する大学等の入試担当との調整や企業関係者及び各省庁との日程調整を十分行っていただきたい。

3 特別活動への影響

高校生活における部活動の占める割合は大きい。体育系の部活動では、様々な団体が5月を中心に春の全国大会に向けて地区予選が行われることが多い。そのため休暇分散化により地区ごとの大会の組み合わせが異なるため日程調整が困難になる恐れがある。また、すべての連休が終了した後に全国大会が行われるが、5月下旬には定期考査を行う学校が多いことから、全国大会の実施日が相当遅れることが予想される。一方、大会会場を押しやるのに2年前から予約をしなければならない。そのためにも最低でも2年前までには方向性を示し、公表していただきたい。なお、秋の連休については、新人戦の多くが11月に組まれているので大きな影響はないと思われる。このことは文化部活動においても同様であり、5月の連休中に全国大会などの実施にあたりご配慮いただきたい。

4 諸検定への影響

連休中に全国一斉の技能検定や学力検定を予定している団体や機関がある。ブロックごとに連休が異なると一斉テスト問題の作成と実施が困難になる恐れがある。そのため実施日を連休以外の日程で調整する必要が生じる。同様に日程調整や会場の予約などの関係から2年以上前までには周知をお願いしたい。

5 休暇分散化の在り方

高校生になると学校で過ごす時間が長くなり、友達との関係や塾や予備校などに通う生徒もいる。一方、保護者の多くは仕事に就き、日頃から生徒と保護者との交流が図りにくい場合が多くなる。そのため休暇分散化により保護者と生徒との休暇が一致しない場合が想定され、休暇の教育的意義が薄れてしまう恐れがある。また、各学校の置かれている現状が異なるため、休暇分散化が導入された場合、学校教育において予想できない様々な影響が表れる恐れがある。導入に当たり産業界等と十分連携を図り、地域の産業界が一致してこの趣旨に賛同し、協力できる体制づくりをお願いしたい。